



OHOW2022 において研究成果を発表しました (2022/12/9)

テーマ：都市の脆弱性, 都市の復興と発展, ヤンゴン スラム 555

会場：Amari Pattaya Hotel (タイ, パタヤ)

URL：<https://sciforum.net/event/ohow2022>

2022年12月8日から10日にかけて、OHOW2022 (The 1st International Symposium on One Health, One World) がタイのパタヤで開催されました。

ヒトと動物間で類似した病気は数多く、特に感染症では密接に関わっていますが、その学問は医学・獣医学・野生動物学・農学・環境学などの分野が独立した領域で発展してきました。しかし、近年問題となっている重篤な感染症は、動物種や国の壁を超えて伝播し流行をもたらしたことから、共同で研究する必要性が認識されています。一方で、大気や水・生態系といった自然環境の状態とそれらの変化はヒトと動物の健康に極めて深く関わっていることから、感染症を防ぎ、ヒトや家畜、それらを取り巻く生態系の健康を守るための学際的な研究を総合的に発展させることが不可欠との新たな概念として One Health, One World が生まれ、2004年にニューヨークで開かれた国際会議において、「マンハッタン原則」として12の行動原則が提唱されました。その後、この概念は欧米において、いち早く会合や国際機関、自然保全諸条約の活動に引き継がれましたが、アジアでは今回初めての国際会議として開催されました。

当研究所の村尾修教授（国際防災戦略研究分野）は、「Distribution and Development Process of Slum Districts in Yangon」と題し、ミャンマーのヤンゴンにおけるスラム地区の現状と発展過程、居住者の生活実態等について成果発表を行いました。

これからも、健康・地球環境・災害を総合的にとらえ、疫病なども含めた防災の具体的な解決策創出に取り組んでまいります。



発表の様子



同セッションの演者

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）